

平成26年度 北信越ブロッククラブネットワークアクション2014

開催報告

- 日時 [第1日目] 平成26年11月15日(土) 13:00~17:00
 [第2日目] 平成26年11月16日(日) 9:00~13:40

■会場 芦泉荘(ろせんそう) 3階 大会議室

■内容 <1日目>

1. 開会、主催者挨拶、オリエンテーション
2. 他分野(まちづくり)から学ぶ
3. 他分野(地域活性化)から学ぶ
4. 他分野(まちづくり・環境保全)から学ぶ
5. グループディスカッション①、まとめ

<2日目>

1. 他分野(里山整備)から学ぶ
2. 他分野(まちづくり)から学ぶ
3. グループディスカッション②、まとめ
4. 日本体育協会からの情報提供
5. 閉会

■概要 今回、「他分野」をキーワードとして、北信越ブロック内の地域で活躍し、成果を出している方々から話を伺うことを通じて、クラブのミッションの再確認、組織体制、広報戦略・戦術、顧客獲得等についてのヒントをいただき、各クラブのマネジメントに役立てることを目的として開催した。



■他分野から学ぶ:各セッション講演内容

【セッション1(まちづくり)】

○テーマ:「夢はゴールポストの向こうに」

○講師: AC長野パルセイロ 代表取締役 丹羽 洋介 氏(長野県)

平成2年創設の長野エルザサッカークラブが前身である。平成19年より商標登録の関係から一般公募で選ばれた「AC長野パルセイロ」に名称を変更した。「パルセイロ」はポルトガル語で「パートナー」の意味であり、地域社会とクラブがパートナーとして共生する「地域密着協働型スポーツクラブ」を目指すことを意味している。運営会社は株式会社長野パルセイロ・アスレチッククラブである。

【キーワード】

- ・職員を大切にする。サポーターを大切にする。お客さんを大切にする。
- ・パルセイロ=パートナー
- ・地域を愛する気持ちとやり切る意地

【セクション2(地域活性化)】

○テーマ：「スポーツを活かした元気あるまちづくり」

～市民と団体が連携した地域活性化を目指して～

○講師：十日町市スポーツコミッション 会長 西方 勝一郎 氏(新潟県)

平成20年5月に総合型地域スポーツクラブと予防医療を専門とする病院が核となって「十日町市スポーツコミッション地域再生協議会」が設立された。この協議会では、スポーツを幅広く捉え、それを支える交通や食、宿泊、行政等の関係者も参画して十日町市を「スポーツキャンプ拠点」として形成させ、新たな基幹産業を創出すべく様々な活動を行っている。

その活動の中で、関東地域の学生や実業団の陸上選手による競技大会やフィットネス大会等のスポーツイベントを地域の観光に資するものとし、まちづくり、地域づくりに展開しようとする活動があり、スポーツツーリズムが推進されつつある。さらに現在、市行政と連携して十日町のまちづくり、地域づくりに資する「十日町市スポーツコミッション」を形成すべく、活動を展開中である。

その中で、多種多様な企業や団体および行政の連携、協働のまちづくり新しい公共の場、キャンプ・合宿の拠点としての位置づけ、総合調整の場(地方版プラットフォーム)の構築、新たなコミュニティ形成等の成果が挙げられた。



【キーワード】

- ・まちなか、まちじゅう
- ・連携組織体(オール〇〇まち)
- ・チャレンジと成長と自立
- ・見方を変える

【セクション3(まちづくり・環境保全)】

○テーマ：「市民協働・民間まちづくり会社・NPO によるまちづくり」

～まち育て、みせ育て、ひと育て～

○講師：株式会社御祓川 代表取締役社長 森山 奈美 氏(石川県)

御祓川は石川県七尾市の中心市街地を東西に分ける川で かつて七尾城が城山にあった頃、港とまちと城とを結ぶ小運河が御祓川を中心に建設された。川沿いには市が立ち、買い物客で賑わい、その頃から御祓川は市民の様々な生活シーンの舞台として流れ続けてきた。しかし、その御祓川が県内一と言われる汚染に悲鳴をあげ、怒りの異臭を放っていくこととなった。

この川の清流と周辺の賑わいを取り戻すことは、市民にとっての最大の課題である。現在、御祓川周辺において同時進行で進められている基盤整備と連携しながら、同地区の賑わいを「再生」することを目指した。統一したデザインコンセプトに基づくまちづくり、七尾文化を担う人材の育成を目指し、御祓川の「再生」とその界隈の賑わいづくりを目的として新しいまちづくり会社を設立した。

具体的な事業としては、次の事業を行っている。

「みせ育て」(飲食部門・物販部門)：

直営店「ギャラリー葦」「まいもん処いしり亭」の運営、いしり・もみいかの販売、
能登スタイルストアの運営

「まち育て」(開発部門・ソフト部門)：

川沿いの店舗開発、まちづくり計画の立案サポート、御祓川浄化方策提案

「ひと育て」(ソフト部門)：

NPO 活動支援(事務局受託)、視察受入、研修・講座の自主開催・受託

【キーワード】

- ・ドブ川→御祓川 地域課題をエネルギーに
- ・企業誘致→起業家誘致
- ・関係性を再構築する。
- ・人々が関わって自分たちの地域の課題を解決する。

【グループディスカッション①、まとめ】

「地域を巻き込むために」をテーマに各グループで話し合い、意見交換を行った。地域スポーツクラブの経営においては、クラブに関わる方に満足を持たせ、「子どもたちのために」「困っている人のために」「一緒に地域を元気にしませんか」等の分かりやすいシンプルなメッセージの発信が必要であること、「仲間を増やす。一人一人を大切にすると」といった共感のマネジメントが大切であることを確認した。



【セクション4(里山整備)】

○テーマ：「身近な里山を楽しみながら整備し、みんなで楽しめるフィールドに」

～きんたろう倶楽部の活動紹介～

○講師：NPO 法人きんたろう倶楽部 副理事長 中野 康英 氏(富山県)

富山市の旧 7 市町村に活動拠点を設け、それぞれの地域の団体や学校教育関係、企業等と協働による里山の整備を行っている。

「森づくり」「人づくり」「地域づくり」「里山活用」の 4 つの事業活動を柱として、里山再生や森と街の持続的な循環の輪をつくり、未来を担う子どもたちへ誇りを持って託せる森林都市富山の創造に寄与することを目的に環境保全活動に取り組んでいる。また呉羽丘陵の賑わいを創出する森づくり活動ではモデルケースとして「きんたろうの森」を月 2 回、年間を通して整備を行っており、集いやすくなるよう周囲のマップづくりにも取り組んでいる。

平成 25 年から女性会員が中心となって、森の癒しとして里山のアロマづくりやハーブ講座の事業を開始し、地域の方はもちろん会員からも好評だったクラフト出前講座とともに年間行事として取り組むこととなり、森を使った利活用的一端となっている。

【キーワード】

- ・街のニーズに応える
- ・持続可能にするために
- ・みんなで楽しめるフィールド

【セクション5(まちづくり)】

○テーマ: 「学生と連携した街づくり」

○講師: NPO 法人エル・コミュニティ 理事長 竹部 美樹 氏(福井県)

大学生の力を発揮するフィールドを地域に創った事例(鯖江地域活性化コンテスト)について紹介いただいた。

鯖江地域活性化コンテストとは・・・

「全国の大学生に参加を募り、エントリーシートや電話面接といった選考を通過した24名の学生が鯖江に集結し、2泊3日の合宿を行う。3名1組でチームを組み、市長の講義や市内各地の聞き込み調査を行いながら、鯖江をより良い街にするためのプランを考え、最終日には市長・商工会議所会頭・地元企業の社長・市民といった方々の前でプレゼンテーションを行い、プランを競い合うイベントである。



「鯖江地域活性化コンテスト」には、大きな特長が2点ある。1点目は、提案されたプランの具体化に向けて、実際に市役所等で検討されることである。コンテストだけの一時的な盛り上がりで終始せず、提案された全てのプランをできる限り実現するために議論が重ねられ、その結果が公開される。学生達が心血を注いで作り上げたプランの実現のために街をあげて動く姿勢が、学生達のモチベーション向上にもつながり、より良いプラン作りにつながるという好循環を生み出している。

2点目は、運営を地元の学生団体が引き、メンター(助言者)として団体のOB・OGがつくことである。地元の学生にとっても、参加学生への存在は刺激になり、OB・OGにとっても鯖江へのふるさとがえりという意味を持ち、いわゆるwin-winの関係となっている。

※学生の巻き込む方法について:

地元のお祭り等に積極的に参加して中心の方々に声を掛けたり、地元新聞に掲載されている学生に会いに行ったり、地道な積み重ねの結果、鯖江地域活性化プランコンテストが形になったという。趣向を凝らした鯖江地域活性化コンテストは、いまや若手の登竜門のひとつになっている。優秀な学生が後輩に声を掛けることで、その輪が広がっていく。

【キーワード】

- ・元気になるきっかけづくり
- ・若者 馬鹿者 よそ者
- ・スピード・共有・営業力・プレゼン力・情報発信力
- ・想い・地域愛

【グループディスカッション②、まとめ】

「5セクションの話聞いてクラブ運営に活かせること」をテーマに各グループで話し合い、意見交換を行った。ドラッガーの5つのマネジメント「我々の使命は何か、我々の責任は何か、我々の顧客が求めているものは何か、我々の求める成果は何か、我々の計画は何か」を常に問い続け、組織面、事業面、財政面を戦略的に進めていくことが大切であることを確認し合った。



北信越ブロッククラブネットワークアクション 2014

実行委員長 榎 敏弘